

編修趣意書

教育基本法との対照表

※受理番号	学校	教科	種目	学年
30-2	小学校	国語科	書写	第2学年
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
38 光村	書写 204	しよしゃ 二年		

1. 編修の基本方針

「書くことで、つながろう。」

書くことで伝え合う喜び。学んだことが日常に生きていく実感。文字の歴史や書の文化に触れる楽しさ。

「書く」ことは、学校生活や日常生活、友達や地域社会、文字の歴史や文化など、さまざまなものとの「つながり」を生みだします。書くことで広がる子どもたちの日常に思いを馳せながら、私たちは、この教科書を編修しました。

1 書く楽しさや達成感が感じられる

——「楽しい!」「おもしろい!」が、学ぶ意欲を高めます。

文字を書く楽しさや喜びを体感できるように、児童が主体的に取り組める言語活動を提示しました。また、学習の前後での自己の変容を実感することで、達成感が感じられるように、学習内容を焦点化し、「何を学ぶのか」「何ができるようになったのか」が明確に分かる構成としました。

2 「書く力」が、無理なく身につく

——「文字を上手に書きたい」という、児童の願いに応えます。

すべての学習要素を効果的に学習できるように、書写要素を精選し、6年間で無理なく身につけられるよう、発達段階に応じて段階的・系統的に教材を配列しました。また、児童が主体的に課題発見・課題解決ができるように学習の流れを明確にし、場面や状況に応じて適切に書く能力を育むことをめざしました。

3 学んだことが、日常に生きる

——「書写は何に生かせるのだろうか?」という疑問に答えます。

児童が必然性をもって学習できるよう、日常生活とのつながりを実感できるような学習活動を設定しました。さらに、書写で身につけた力が国語科や他教科、日常生活でも生きて働くよう教材化を工夫し、書写で学習したことを実感できる構成にしました。



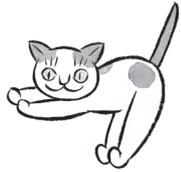
1

書く楽しさや達成感が感じられる

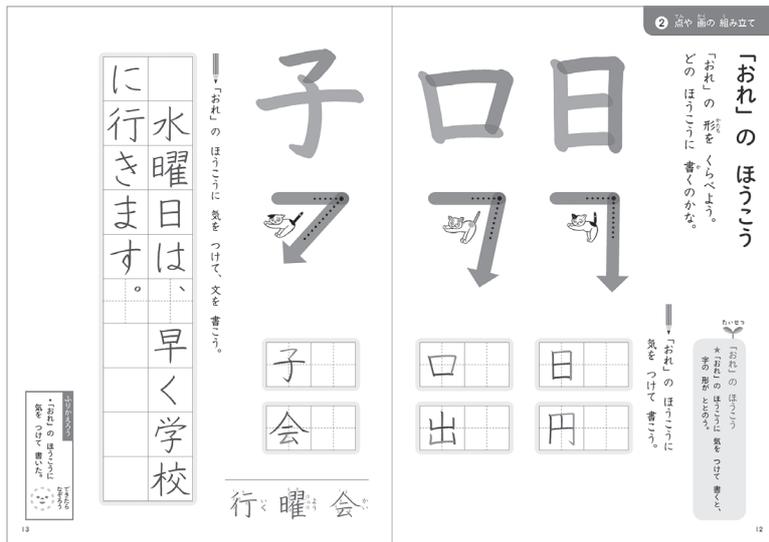
——「楽しい!」「おもしろい!」が、学ぶ意欲を高めます。

主体的に取り組める言語活動を提示しました。

低学年を中心に、なぞり書きや空書きなど、体感を通して理解を深める教材を積極的に取り入れました。思わずやってみたくなる、体を動かしてみたくなる。そんな活動がいっぱいです。



キャラクターの動きや擬態語・擬音語を活用して、直感的に書き方を理解することができます。



p.12-13 「『おれ』の ほうこう」

文字を指でなぞって「おれ」の方向を確認する教材。児童の指にフィットするなぞり書き用の文字を作りました。



学習内容を焦点化し、達成感の得られる構成としました。

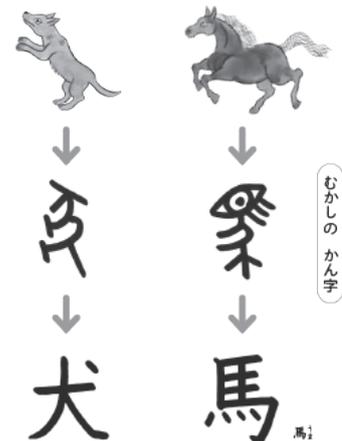
教材単位で学習が完結する、1教材1単元構成を採用。「何を学ぶか」「何ができるようになったか」が分かりやすいよう、教材名＝書写の学習要素とし、全教材の末尾に自己評価欄（第1学年は「できたかな」／第2学年以上は「ふり返ろう」）を設けました。「書けた!」「書き方が分かった!」という達成感が、学習への意欲をさらに高めます。

「文字のおもしろさ」を感じられる教材が豊富です。

文字への興味・関心が高まるよう、漢字の成り立ちを楽しいイラストで解説する「漢字図鑑」を全学年に位置づけました。発達段階に応じて、低学年では象形文字、中学年では指事文字・会意文字、高学年では会意文字・形声文字を取り上げています。



p.27 「かん字 図かん」



2

「書く力」が、無理なく身につく

— 「文字を上手に書きたい」という、児童の願いに応えます。

何を学ぶかが、ひと目で分かる構成にしました。

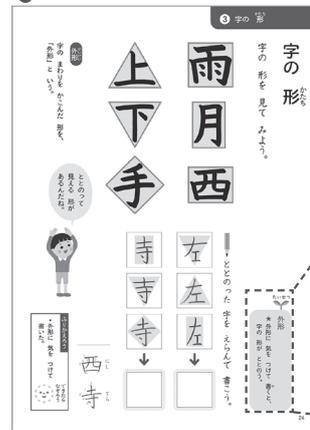
各教材を、見開きまたは1ページ構成とし、シンプルで分かりやすい紙面を実現しました。スモールステップを積み重ねることで、着実に基礎・基本を身につけることができます。また、第2学年以上の全教材に、学習のポイントがひと目で分かる「たいせつ」を設定しました。

いちばん大事なことを大きく、その他の事例は小さく扱うなど、情報に軽重をつけました。



p.16 「『そり』のほうこう」

具体的な内容（画の方向など）から抽象的内容（外形など）へと、段階的に教材を配列しました。



p.24 「字の形」

たいせつ
外形

★外形に気をつけて書くとき、字の形がととのう。

「たいせつ」

姿勢・筆記具の持ち方を、繰り返し確認することができます。

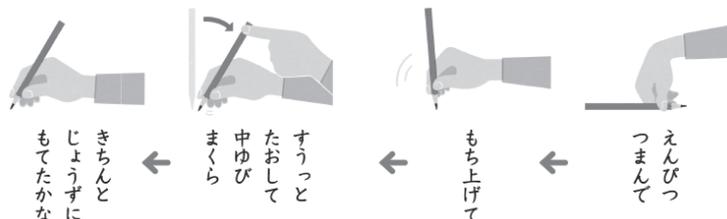
各学年の巻頭に、姿勢と筆記具の持ち方を確認する場を設け、繰り返し定着を図れるよう工夫しました。



p.2-3 「字を書くしせい」



p.4-5 「えんぴつのもち方」



姿勢や筆記具の持ち方のポイントを確認する「唱え歌」を作成しました。

3

学んだことが、日常に生きる

——「書写は何に生かせるのだろうか？」という疑問に答えます。

日常とのつながりが実感できる教材を設定しました。



児童が書写学習に親しみをもち、文字を書く意欲を喚起できるよう、教材として提示する語句や文章は、児童の日常生活や他教科の学習内容から幅広く取り上げました。

[日常生活から]

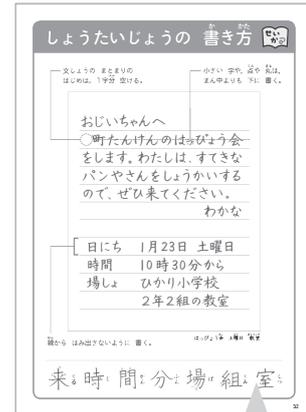


p.33「わすれものゼロ作せん」



p.28-29「書きぞめ」

[他教科の学習内容から]



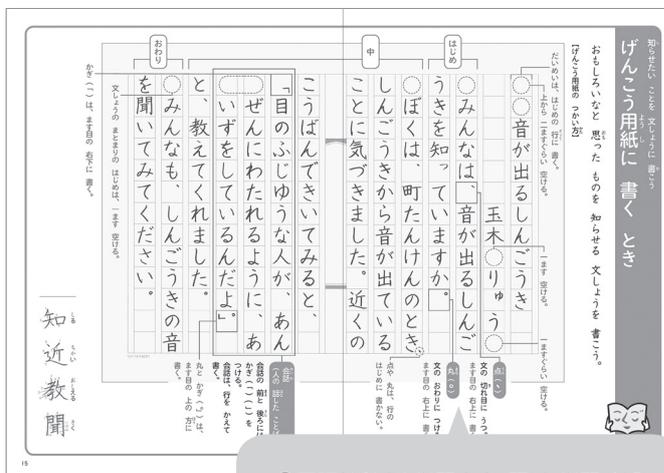
p.32「しょうたいじょうの書き方」

書写での学習を他教科に生かす橋渡しとなる教材を、各学年に設けました。

国語教科書と連動させて学習することができます。



国語教科書と連動できる教材を、各学年に二つ設定しました。国語と一体的に扱うことで、学習活動に必然性が生まれ、単元全体の配当時数にも余裕が生まれます。



p.14-15「げんこう用紙に書くとき」

①国語教科書と学習内容・題材・学習時期が一致した教材です。書写ならではの書き方のポイントを付しました。



p.26「ことばを楽もう」

②国語教科書に掲載されている物語や短歌・俳句を、書いて味わう教材です。

2. 対照表

[第 2 学 年]

図書の構成・内容		特に意を用いた点や特色	該当頁
しよしゃ たいそう		書写が身体を使って書く技能学習でもあることを意識できるよう、学習のはじめに書写体操を導入した。全教科の学習にも通じる柔軟体操であり、健やかな身体を養うことができるよう配慮した。【第一号】	表2-1
いつも 気を つけよう	字を書くしせい	正しい姿勢を身につけ、鉛筆の正しい持ち方と動かし方を習得することにより、文字を書くことの喜びや楽しさを体感し、豊かな情操を培うとともに、健やかな身体を養うことができるよう配慮した。【第一号】	2-3
	えんぴつのもち方		4-5
点や 画の 組み立て	書きじゆん	主体的な学習活動を通して、判断力や真理を求める態度を養えるよう、各教材のリード文は児童自らが考え課題発見できるような表現にした。【第一号】 書写の学習活動をサポートするため、日常生活とのつながりを実感できるイラストを随所に設定するとともに、児童それぞれにさまざまな気付きがあることを知り、また、友達どうしで学習内容を確認したり学習成果を認め合ったりしてお互いを尊重しながら創造性を養えることができるよう、構成にも配慮した。【第二号】	6-7
	点と画の名前		8-9
	「はらい」のほうこう		10-11
	「おれ」のほうこう		12-13
	げんこう用紙に書くとき		14-15
	「そり」のほうこう		16
	「点」のほうこう		17
	画の長さ		18
	点や画の間		19
	画のつき方と交わり方		20-21
	点や画の書き方のまとめ		22
水ふでで書いてみよう		水筆での活動を取り入れることにより、個人の価値を尊重して、その能力を伸ばし、創造性を培う態度を養うよう配慮した。【第二号】	23
字の形	字の形	課題解決への示唆として、キャラクターを配し、吹き出しを用いて示すなど、児童一人ひとりの個性を尊重し、個々に応じた学習の拡充が図れるような教材を設定した。【第二号】	24
	字の中心		25
	ことばを 楽しもう / かん字 図かん		26-27
書きぞめ		書き初め教材を設定することで、伝統と文化を尊重し我が国と郷土を愛することについて児童が意識をもてるよう配慮した。【第五号】	28-29
二年生の まとめ		既習事項を繰り返して教材化することで、児童の理解を深め、個人の価値を尊重し、創造性を培い、自主及び自律の精神を養うよう配慮した。【第二号】	30-31
まとめ	しょうたいじょうの書き方	公共の精神に基づき、主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うために、児童の日常に活かせるノートや横書きの他教科教材に配慮した。【第三号】	32
	やってみよう わずれもの ゼロ作せん		33
	「たいせつ」のまとめ		34
	もっと知りたい えんぴつの ひみつ		35
	できて いるかな		40
ひらがな / かたかな		日本語の表記上、主要な役割である「ひらがな・かたかな」を一覧で示すことで、文字を正しく整えて書く意識を高め、主体的に社会の形成に参画する態度を養えるよう配慮した。【第三号】	36
しりょう	一年生で 学んだ かん字 (80字)	主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養えるよう、第1・2学年で学習する漢字とその書き順を一覧にまとめ、文字を正しく整えて書くことができるよう配慮した。【第三号】	37
	二年生で 学ぶ かん字 (160字)		38-39
筆で書いてみよう		第3学年で学習する毛筆教材を設定することで、伝統と文化を尊重し我が国と郷土を愛することについて児童が意識をもてるよう配慮した。【第五号】	41

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

すべての児童にとって使いやすく、わかりやすい教科書を実現しました。

- 特別支援教育の専門家から校閲を受け、情報を精選し、大切なことがひと目で分かる、すっきりとしたレイアウトを実現しました。
- カラーユニバーサルデザインの専門家から校閲を受け、文字や図表などに複数の色を用いるときは、だれもが明確に識別できる色の組み合わせになるよう配慮しました。
- 読みやすさを考慮して独自に開発した、オリジナルの教科書体を使用しました。
- 単元名・教材名や、「たいせつ」には、読みやすさと見やすさを追求したユニバーサルデザイン書体を用いました。

編修趣意書

学習指導要領との対照表， 配当授業時数表

※受理番号	学校	教科	種目	学年
30-2	小学校	国語科	書写	第2学年
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
38 光村	書写 204	しよしゃ 二年		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

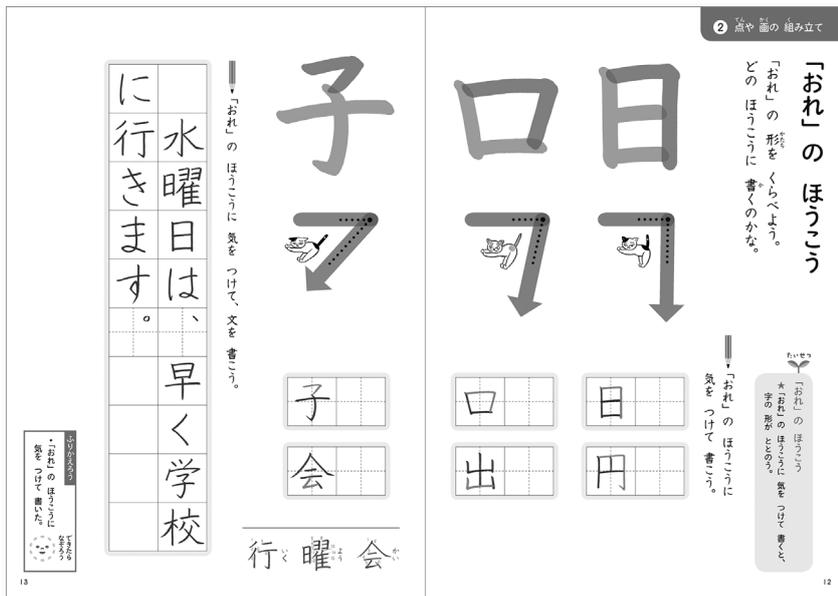
1 体感的，直感的に理解できる。

—— 児童が思わず体を動かしたくなる教科書をめざしました。

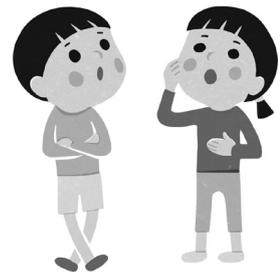
なぞり書きや空書きなど，「体で覚える」教材を随所に設けました。

【なぞり書き】

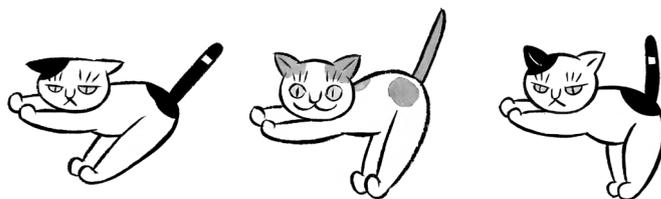
体験を通して理解を深められるよう，指でなぞって筆使いを確認する活動を随所に位置づけました。また，キャラクターの動きで直感的に点や画の書き方を理解することができます。



【子どもキャラクター】
児童とともに成長し，
課題解決や着想の
ヒントを与えます。



p.12-13 「『おれ』の ほうこう」



【動物キャラクター】
筆使いや運筆のリ
ズムを体の動きで
表現します。

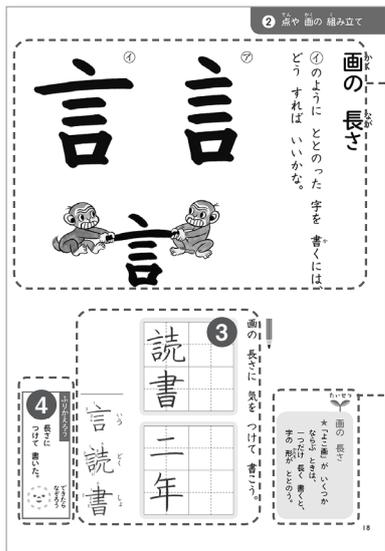
2

学習の流れが、分かりやすい。

—— 「学びやすい、教えやすい教科書」をめざしました。

「文字の整え方」を学び、日常に生かすことができる構成です。

各教材は、課題解決型学習を想定して構成しました。課題発見から解決までのプロセスを通して、書写の原理・原則を主体的に学び取ると同時に、思考力・判断力・表現力を養えるよう配慮しました。



p.18「画の長さ」

- ① 導入
観察や比較を通して、
原理・原則を発見する。
[教材名・課題]
- ② 理解
「たいせつ」で
原理・原則を理解する。
- ③ 確認
書いて原理・原則を確かめ、
技能を習得する。
- ④ 活用
日常の文字に生かす手がかりとする。
[ふりかえろう]

文字の整え方を学び、
いろいろな文字に応用で
きる「書く力」を育みます。



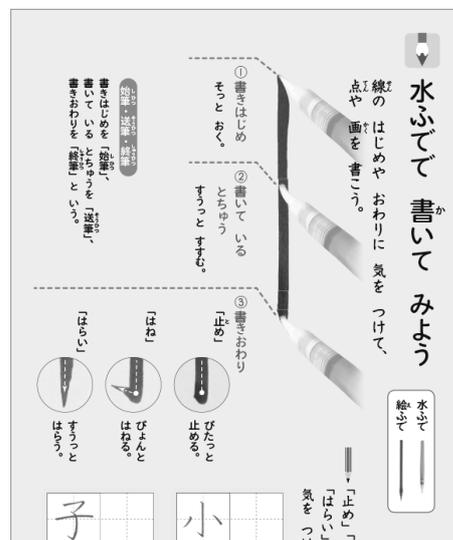
3

「水ふでで書いてみよう」の新設。

—— 始筆から終筆までの筆使いを、何度でも体感することができます。

新学習指導要領の「点画の書き方」に対応しています。

第1・2学年に「水ふでで書いてみよう」を新設し、水書用筆等で書く活動を取り入れました。第1学年では、おもに終筆(とめ・はね・はらい)の筆使いを、第2学年では、始筆から終筆までの筆使いを繰り返し練習することで、書く力が飛躍的に向上します。



p.23「水ふでで書いてみよう」

4

「しよしゃ たいそう」で、書くための体をつくる。

—— 正しい姿勢・筆記具の持ち方を実現する体づくりのために。

第1・2学年の巻頭ページに、「書写体操」を位置づけました。

全教科の基礎である姿勢・筆記具の持ち方が学習習慣として定着するよう、スポーツ科学の専門家の監修による「書写体操」を作りました。まずは、正しい姿勢・執筆を実現するための体づくりから、書写の授業が始まります。

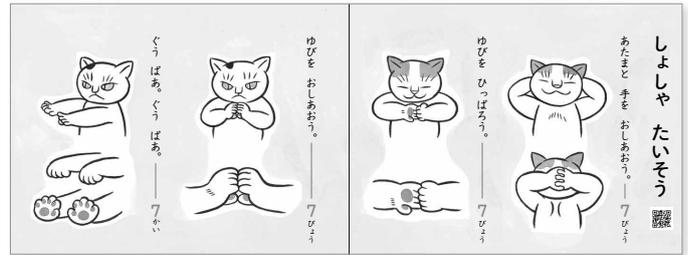
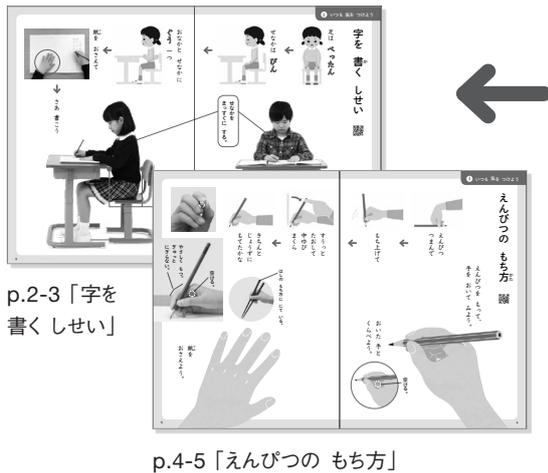


表2-p.1 「しよしゃ たいそう」

5

その他のポイント

—— すべての児童にとって使いやすく、分かりやすい教科書のために。

理解がぐっと深まる 豊富な動画資料を用意しました。

教科書紙面に「二次元コード」がある教材では、スマートフォンやタブレットを使って、筆使いを確かめる動画などのさまざまな資料を見ることができます。



特別支援教育の観点から、専門家の指導・校閲を受けました。

- 特別支援教育の専門家による全ページの校閲を受け、情報を精選し、大切なことがひと目で分かる、すっきりとしたレイアウトを実現しました。特別に支援が必要な児童にとっても、混乱が生じにくく学びやすい紙面です。
- カラーユニバーサルデザインの専門家による厳しい校閲を受け、文字や図表などに複数の色を用いるときは、だれもが明確に識別できる色の組み合わせになるよう配慮しました。
- 読みやすさを考慮して独自に開発した、オリジナルの教科書体を使用しています。
- 単元名・教材名や、「たいせつ」には、読みやすさと見やすさを追求したユニバーサルデザイン書体を用いました。



教科書体



UD書体
(ユニバーサルデザイン)



手書き文字

教科書の特徴

[第2学年]

教育基本法の遵守	<ul style="list-style-type: none"> ・書写の学習を通して幅広い知識・教養を身につけるとともに、書写で培った「正しく整えて文字を書く力」を他教科や日常の言語生活で生かす態度を育成できるよう配慮しました。 ・知識・技能を習得し、課題解決を行う過程で、「思考力・判断力・表現力」や「学びに向かう力」など、「生きる力」を支える能力を養えるよう配慮しました。
学習指導要領の遵守	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領に示された「我が国の言語文化に関する事項」の「書写」の指導を全て網羅できるように単元・教材を作成しました。 ・点画の書き方を繰り返し練習し、適切に運筆する能力を向上させる教材として、「水筆で書いてみよう」(p.23)を設けました。
内容と系統	<ul style="list-style-type: none"> ・低・中・高の各学年段階で求められる「書く力」を確実に身につけられるよう、基礎的・基本的な知識・技能を系統的に位置づけ、習得と活用を繰り返しながら螺旋的に高められるよう工夫しました。 ・全教材に、学習のポイントがひと目で分かる「たいせつ」を、巻末には「『たいせつ』のまとめ」を設け、「書く力」が確実に定着するよう工夫しました。
配列・分量	<ul style="list-style-type: none"> ・1教材1目標とし、その教材で扱う要素を焦点化することで、学習のねらいが明確になり、効果的に力をつけられるよう配慮しました。 ・各教材は、①導入(原理・原則の発見)→②理解→③確認(書いて原理・原則を確かめる)→④活用(日常の文字に生かす・振り返り)という展開が、ひと目で分かる構成にしました。
主体的・対話的で深い学びへの対応	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に学習に取り組めるよう、体感を通して理解を深める なぞり書きなどの教材を積極的に取り入れました。 ・課題解決型学習を行っていくなかで、対話を通して学習を深められるよう配慮しました。
教材の選定	<ul style="list-style-type: none"> ・硬筆教材には、学習指導要領の「学年別漢字配当表」に準拠しつつ、部分の形の統一が図られた、小学生にとって学びやすい文字を採用しました。書写の基礎・基本を押さえるのに適しているだけでなく、「国語科書写」として、児童の感性を高められるすぐれた言葉や文章を選びました。
伝統・文化の取り上げ方	<ul style="list-style-type: none"> ・書き初めや、漢字の成り立ちをコラムで提示するなど、伝統的な言語文化への理解を深められるよう配慮しました。 ・国語教科書に掲載された物語や短歌・俳句のなぞり書き教材として、「言葉を楽しもう」を全学年に位置づけました。
中学年以降の書写への接続	<ul style="list-style-type: none"> ・巻末に「筆で書いてみよう」を設け、筆の特性を紹介することで、第3学年から始まる毛筆学習への期待を高められるよう工夫しました。
他教科や実生活との関連	<ul style="list-style-type: none"> ・各学年に国語との関連教材を2か所設け、言語活動(話すこと・聞くこと／書くこと)を通して、日常生活に生きて働く書写の知識・技能を習得できるよう工夫しました。 ・生活科との関連教材を設けるなど、教科横断的な学習が充実するよう配慮しました。
道徳との関連	<ul style="list-style-type: none"> ・全学年に書き初め教材を設置し、優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献するための素地を培えるよう配慮しました。 ・「えんぴつのひみつ」(p.35)では、鉛筆の製造工程を取り上げ、筆記具を大切にしている心情を育成できるよう配慮しました。
家庭や地域社会との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・「招待状の書き方」(p.32)では、家の人にあてた 町探検の学習発表会への招待状を取り上げるなど、家庭や地域社会との連携に配慮しました。
特別支援教育・ユニバーサルデザイン	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての児童が学習に集中できるよう、大切なことがひと目でわかる、すっきりとした紙面構成を実現しました。 ・複数の色を組み合わせるときには、色覚の多様性に配慮し、誰もが識別できる配色を採用しました。
文字・印刷・製本	<ul style="list-style-type: none"> ・環境への配慮から、再生紙・植物油インキを用いています。 ・強度が高く、鉛筆で書きやすい用紙を開発し、採用しました。 ・針金を3か所に施した中綴じ製本で、長期の使用に耐えられるよう配慮しました。

2. 対照表

[第 2 学 年]

図書の構成・内容		学習指導要領の内容			該当頁	配 当 時 数
		【知識及び技能】		その他の指導事項		
		(3) ウの事項	(1) の事項			
しよしゃ たいそう		(ア)			表2-1	適宜
① つげよ う	字を 書く しせい	(ア)			2-3	1～2
	えんぴつの もち方	(ア)			4-5	
② 点や 画の 組み立 て	書きじゅん	(イ)	エ		6-7	2
	点と 画の 名前	(イ)	エ		8-9	2
	「はらい」の ほうこう	(イ)・(ウ)	エ		10-11	2
	「おれ」の ほうこう	(イ)・(ウ)	ウ・エ		12-13	2
	げんこう用紙に 書く とき 〈こくご〉	(イ)・(ウ)	ウ・エ	B(1) ウ・エ (2) ア	14-15	2
	「そり」の ほうこう	(イ)・(ウ)	エ		16	2～3
	「点」の ほうこう	(イ)・(ウ)	エ		17	
	画の 長さ	(イ)・(ウ)	エ		18	2～3
	点や 画の 間	(イ)・(ウ)	エ		19	
	画の つき方と 交わり方	(イ)・(ウ)	エ		20-21	
	点や 画の 書き方の まとめ	(イ)・(ウ)	エ		22	2
水ふでで 書いて みよう	(イ)	ウ・エ	内容の取扱い カ(エ)	23	適宜	
③ 字の 形	字の 形	(イ)・(ウ)	エ		24	2
	字の 中心	(イ)・(ウ)	エ		25	1
	ことばを 楽しもう 〈こくご〉／かん字 図かん	(イ)	ウ・エ		26-27	1/適宜
④ まと め	書きぞめ	(ア)・(イ)・(ウ)	ウ・エ		28-29	4～5
	二年生の まとめ	(ア)・(イ)・(ウ)	ウ・エ	B(1) ウ・エ (2) ア	30-31	2～3
	しょうたいじょうの 書き方 〈せいかつ〉	(イ)	ウ・エ	B(1) ウ・エ (2) イ	32	適宜
	[やってみよう] わすれもの ゼロ作せん	(イ)	ウ・エ	B(1) ウ・エ	33	
	「たいせつ」の まとめ	(イ)・(ウ)			34	
	[もっと 知りたい] えんぴつの ひみつ	(ア)			35	1
	できて いるかな	(ア)			40	
しり よう	ひらがな／かたかな	(イ)	ウ		36	適宜
	一年生で 学んだ かん字 (80字)	(イ)・(ウ)	エ		37	
	二年生で 学ぶ かん字 (160字)	(イ)・(ウ)	エ		38-39	
筆で 書いて みよう 〈はってん〉		※3・4年エ(ウ)			41	適宜
					合計時数	30～35

編修趣意書

発展的な学習内容の記述

※受理番号	学校	教科	種目	学年
30-2	小学校	国語科	書写	第2学年
※発行者の番号・略称	※教科書の記号・番号	※教科書名		
38 光村	書写 204	しよしゃ 二年		

1. 発展的な学習内容一覧表

ページ	記述	類型	関連する学習指導要領の内容や内容の取扱いに示す事項
41	筆で書いてみよう [はってん]	1	小学校国語科学習指導要領 [第3学年及び第4学年] (3) エ・(ウ) 毛筆を使用して点画の書き方への理解を深め、筆圧などに注意して書くこと。 と関連する。

(発展的な学習内容の記述に係る総ページ数・1)

(「類型」欄の分類について)

- 1… 学習指導要領上、隣接した後の学年等の学習内容（隣接した学年等以外の学習内容であっても、当該学年等の学習内容と直接的な系統性があるものを含む）とされている内容
- 2… 学習指導要領上、どの学年等でも扱うこととされていない内容